

地域の特徴に応じたアプローチ

■ 米国若手日本語教員 (J-LEAP)

米国における日本語教育や日本文化理解の促進を目的に、日本語講座を有する米国各都市の初・中等教育機関にアシスタント・ティーチャーとして若手日本語教員を2年間の任期で派遣。



● H23年度からR4年度までに派遣：104名（第1期～第11期）

● R5年度から派遣中：6名（第12期）

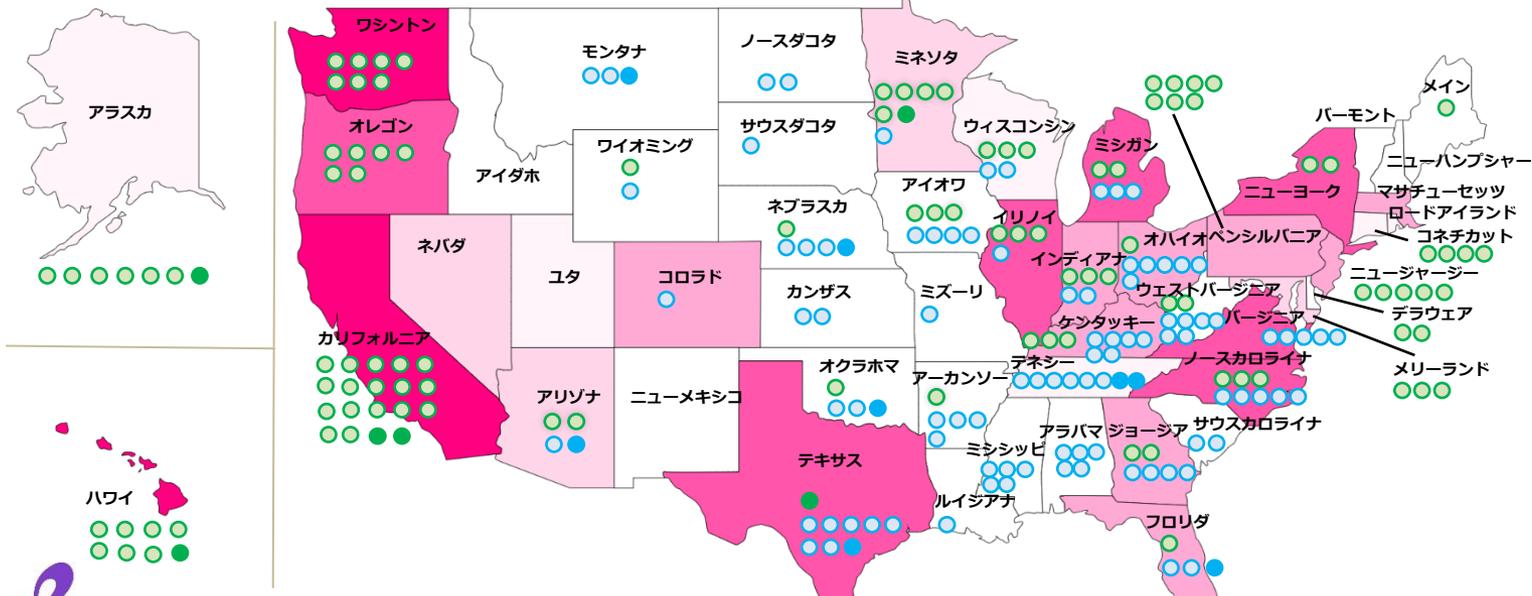
■ 日米草の根交流コーディネーター (JOI)

日本との交流機会が比較的少ない米国の南部・中西部・山岳部における対日関心の喚起や日本理解の促進および草の根交流の担い手育成を目的に、日本人コーディネーターを2年間の任期で派遣。



● H14年度からR4年度までに派遣：93名（第1期～第20期）

● R5年度から派遣中：8名（第21期）



■ 全米日米協会連合会 (NAJAS) の支援

全米各地に点在する日米協会を通じた草の根交流の促進と日米の市民ネットワークを強化

バイデン政権における重点政策に沿ったアプローチ

優先課題（気候変動等の共通のグローバル課題）をテーマとした事業

■ 国際交流基金インド太平洋パートナーシップ・プログラム (JFIPP)

インド太平洋地域におけるパートナーシップと知的ネットワークの構築を目的として、令和5年度から開始した事業。自由で開かれた国際秩序を維持・強化し、地域全体の平和と安定・繁栄に寄与することを目指し、同地域内外の連携や関与が必要な共通の政策課題について、国際的な研究や共同活動を推進。

（個人対象の「リサーチ・フェローシップ」とグループ型研修の「ネットワーク・フェローシップ」）

－ JFIPPリサーチ・フェローシップ（個人対象）

日本、米国、インド、オーストラリアの国籍／市民権を有する等の所定の申請資格を満たす研究者による政策指向性を持つ研究や調査等へのフェローシップ。対象となる研究課題は、気候変動、防災、グローバルヘルス、エネルギー安全保障、サイバーセキュリティ等。

－ JFIPPネットワーク・フェローシップ（グループ型研修）

インド太平洋地域が直面する共通課題である「気候変動」及び「防災」の2つをテーマとして設定し、次世代の専門家や実務者15名程度からなるグループを編成して、1年間の交流事業を実施。前者の「気候変動」グループは、米国のシンクタンク「東西センター」（本部・ホノルル）と共同で実施。



ホノルル研修（2024.1.29～2.2）



バイデン政権における重点政策に沿ったアプローチ

優先課題（気候変動等の共通のグローバル課題）をテーマとした事業

■ 日米グローバル・パートナーシップ強化助成

気候変動やポスト・コロナを含め、日米間の共通課題等に関連する事業に対する助成（14件採用）

〔例〕

- 「気候変動と食のシステムにおける若者の取り組み」（申請機関：アイリーブ (iLEAP))
- 「ポストコロナの不確実性と日米関係」（申請機関：サザンメソジスト大学）
- 「持続可能な未来：不平等の克服」（申請機関：クレアモント・マッケナ・カレッジ）

■ 日系アメリカ人リーダー招へいプログラム (JALD) 関連事業

令和6年3月のJALD 代表団の訪日に合わせて、米日カウンシルと共同でシンポジウム『Culture, Sports, and Community: Harnessing Global Experiences for Local Economic Revitalization —地域経済活性化を後押しする文化・スポーツ・コミュニティのカー 日系アメリカ人の経験から』を大阪国際交流センターにおいて開催



【参考】 令和6年4月の岸田総理大臣の米国公式訪問において 取り上げられたJFの人的交流事業

◆日米首脳共同声明「未来のためのグローバル・パートナー」

人と人とのつながりの強化

・・・我々は、長期的な関係を発展させる上での、特に対面による語学学習の重要性を認識し、日本からの交流訪問者が米国で日本語及び日本文化の専門知識を共有する機会を増やすための新たな協力覚書を発表するとともに、**米国若手日本語教員 (J-LEAP) 派遣事業拡大**のための取組を歓迎する。

◆ファクトシート

人と人とのつながり

専門家同士の交流促進：我々は、**気候変動や防災等インド太平洋地域が直面する共通の課題**に取り組む**専門家や実務者間の交流を促進する国際交流基金のイニシアティブ**を歓迎し、今後の更なる発展を期待する。

